

第1回 苅田町財政健全化検討会議 議事録

日時：平成28年11月21日（月） 13：30～16：00

場所：苅田町役場 4階401会議室

【次第】

- 1 苅田町長 挨拶
- 2 委員委嘱
- 3 座長挨拶
- 4 座長代理選出
- 5 座長代理ならびに委員自己紹介
- 6 事務局紹介
- 7 議事
 - (1) 検討会議の概要について
 - (2) 苅田町の人口予測・財政の現況について
 - (3) 苅田町の財政シミュレーションについて
- 8 その他
- 9 終了

【委員】

座長	谷口 博文	九州大学 学術研究・産学官連携本部
座長代理	南 博	北九州市立大学 地域戦略研究所 教授
委員	後藤 和孝	福岡県 企画・地域振興部 市町村支援課長←欠席
代理出席	久芳 広規	福岡県 企画・地域振興部 市町村支援 課長補佐
委員	酒井 了	福岡県 建築都市部 都市計画課長
委員	伊庭 良知	一般社団法人 国土政策研究会 理事
委員	橋詰 拓	株式会社福岡銀行 公務金融法人部 公務室 主任調査役

次第1－6：省略

7－(1) 検討会議の概要

委員

議事(1) 検討会議の概要について、事務局より説明をお願いしたい。

事務局（九経調）

本日の議題は、「検討会議の概要について」、「苅田町の人口予測・財政の現況について」、

「荊田町の財政シミュレーションについて」の3つ。

※その後、資料⑤中3ページから6ページを基に、会議の目的や今後のスケジュールについて説明。

委員

御礼を申し上げます。本日は、忌憚のない意見を頂戴したいと考えているので、フランクに議論していきたいと思う。いかがか。

委員

「健全化検討会議」となっているが、何をもって健全化とするのか。事務局の方で何かあるか。

事務局（荊田町）

現在の収支は赤字が続いている。何をもって健全化とするかについては、今のところ黒字化を目指している、という方向性。本会議で「何が健全化と言えるのか」という点についても、ご協議いただければと思う。

委員

2点ある。1点目は、歳出減は具体的にどのようなことを想定されているのか。2点目は、中間報告とあるが、どのような意味があるのか。

事務局（荊田町）

まず、歳出減に関しては、行政サービス及び公共インフラの2つの論点に絞って検討していきたいと考えている。

また、今年度中は期間がタイトで6回の会議をするので、本年度は中間報告としてまず整理していきたいと考えている。次年度以降にさらに深い議論を行った上で、来年度の年度末に最終的な報告書を作成する予定である。

委員

2点ある。1点目は、インフラの長寿命化計画と公共施設管理計画の策定状況はどうか。2点目は、公共インフラの適正規模については連携中枢都市圏での都市機能の分担・連携が重要になるが、公共インフラの適正配置については、この視点も含んだ話になるのか。

事務局（荊田町）

公共施設管理計画は今年度中に策定する見込みである。長寿命化計画は策定済みである。公共インフラの適正配置を連携中枢都市圏で分担するのかどうかということについては、

それを含めて本会議で協議していただければと考えている。

委員

今回は、非常にタイトなスケジュールで協議をするので、深掘りすると次年度になるなど難しい面もあるが、様々な意見をいただきたいと思っている。その他に何かご意見等ないか。

委員

今年度は総論、次年度以降に各論を議論するイメージでよいのか。

事務局（荇田町）

そのように考えている。

7－（2）荇田町の人口予測・財政の現況

委員

次に荇田町の人口予測・財政の現況について、事務局より説明をお願いしたい。

事務局（九経調）

（資料⑤及び資料⑥を基に、荇田町の人口予測や、普通会計決算（歳入・歳出）の推移、主要財政指標の推移、基金残高の推移、形式収支・実質収支等の推移、特別会計の決算状況について説明。）

委員

大変詳細に財政の説明を頂いた。それでは、人口予測も含めて、只今の事務局からの説明について、意見や質問はないか。

委員

人口予測について質問がある。財政と人口を考える時、町内における地区毎の人口の偏在の影響も考えられる。より細かい地域での人口推移も整理が必要ではないか。情報が有れば教えて欲しい。

人口減少については、九経調の推計（人口がより減る傾向）に基づく場合、他の推計に比べて老年人口が少ない。歳出増の要因を考えると、老年人口の影響は大きいと思われる。他の予想よりも老年人口が少ないことについて、どのように考えているのか。

事務局（九経調）

地区別ではないが、町内 500 メートル単位のメッシュで人口推移を整理する見込みである。第 4 回目でお示しする予定。

2 点目については、ご指摘の通り、歳出増の観点も重視する場合も考慮すべきとは思いますが、今回は「歳入が減少する」という視点を重視して採用した。議論の中で歳出増の観点を重視するということであれば、別の推計を使う必要がある。ただし、500 メートル単位のメッシュでの人口推計は、九経調の推計を連動しているため、社人研推計や苧田町の推計では前提条件が全て変わるため、メッシュによる人口推計が推計できなくなる可能性がある。

委員

将来の財政計画、とくに投資的経費については、人口推移と将来予測も重要だがどんなまちづくりをするのかということが大きく影響する。まちづくりのビジョンを前提におくべきではないか。

事務局（苧田町）

地方創生の観点で人口ビジョンを策定した。その中では、製造業の町として就業人口の増加を目指している。土地区画整備事業を推進し、住宅を建設し、就業人口を増やす方向性。次回には、人口ビジョンや総合計画は皆様に示したい。

委員

今日の資料は人口とか財政とか数字に直結したものが多いが、まちの実態や今後のビジョン、産業構造やこれまでの施策などについて苧田町の概要も示して欲しい。

委員

固定資産税が減少しているが、苧田町は減免措置を適用しているのか。また、ウエイトの大きい物件費や補助費等、繰出金の内訳を教えて欲しい。

事務局（苧田町）

固定資産税の減免措置は、土地、家屋ともに適用していない。固定資産税の減少は、償却資産の低下が要因である。

歳出の中身については、物件費は業務委託料や施設維持管理の経費である。補助費は、他の団体への補助金や下水道事業会計への繰出金である。繰出金は、特別会計などへの繰出金である。

委員

繰出金は法定内か、法定外か。

事務局（荇田町）

これは、法定内の繰出金である。ただし国保に関しては、法定外の繰出金を 1 億円限度で繰出している。

委員

補足だが、経常収支比率は、70%以下が適切とあるが、全国の平均が 90%弱程度、福岡県も同様。県内市町村で 70%以下は恐らくない。それだけ地方財政が厳しくなっている状況。

委員

実質公債費比率について、事務局側の説明では低ければよいとあったが、繰り上げ返済などで一時的に高くなることもある。大事なのは、将来負担比率が低くなること。

委員

荇田町は企業が集積している。町内の企業で働いている方がどれほど町内に住んでいるのか、についての割合はどうか。

事務局（荇田町）

昼間人口は 4.2 万人ほどであるが、詳細は次回以降に示したい。

委員

町タバコ税の推移については分析しているのか。

事務局（荇田町）

タバコ税が増えているのは、企業が多いことやコンビニが多いことなどが挙げられるのではないかと見ている。詳細な分析までは至っていない。

委員

将来の人口推計や財政状況について、町民がどのように考えているのか重要になる。総合戦略策定時に、人口推計や財政状況についてどのように感じているのかについて定量的な統計データ（町民アンケートなど）はあるのか。

事務局（荇田町）

総合戦略策定時にアンケートを実施した際には、町民の現状維持もしくは拡大志向が見られた。市への移行を望む声も多い。アンケートの詳細な結果等については、次回以降に

示したい。

7- (3) 菟田町の財政シミュレーション

委員

それでは、菟田町の財政シミュレーションについて、事務局より説明をお願いしたい。

事務局（九経調）

（資料⑤・資料⑥（図表3）・資料⑦）を基に、今後10年間（平成28年度～37年度）の普通会計（歳入・歳出）のシミュレーション結果を説明）

委員

感謝する。将来に向けたシミュレーションのため、前提条件によって変わる。まず、こうした前提条件によって今後のことを考えて良いのかどうか合意をいただきたい。意見や質問があれば発言して欲しい。

委員

制度的な部分で大勢に影響はないかもしれないが、消費税の増税では、法人税割の減税も合わせて実施されるが、このシミュレーションではバランスを欠いている。また、たばこ税は税率が変わっているので将来推計ではその伸びを外すなど制度改変の影響も考慮した方がいいのではないか。菟田町の税務課が把握していると思うので、こうした特殊要因を考慮したシミュレーションがいいのではないか。

委員

こうした推計は一定の限界があることは認識している。その上で菟田町に質問がある。歳入の地方債については町の予定額に基づくとの説明があったが、どのような考えで予定額を算出したのか。また、歳出の公債費も町の予定額に基づくとの説明があったが、今回提示された金額は不自然に感じる。どのような考えで算出しているのか。

事務局（菟田町）

地方債については、菟田町の財政状況が悪化しているため、建設事業は積極的に実施できないことを前提として、H28の借入実績や土地区画整備事業の計画を基に算出している。公債費に関しては、大変申し訳ないが、本来は減少しているが計算式の誤りがあった。

委員

投資的経費の将来見通しを公共施設管理計画等にどこまで反映しているのか。最新の数

値なのか。公共施設管理計画の策定後に将来見通しも変動する可能性があるということなのか。

事務局（荻田町）

現在、公共施設管理計画を策定中である。今回の財政シミュレーション（投資的経費）の数値については、まだ大規模改修をしていない公共施設について今後5年間で大規模改修を行うという見通しで総務省のシミュレーションソフトを使い推計し、その数値を用いている。公共施設管理計画策定においては、5年間で実施する大規模改修を集中させないため、後の年度にずらす平準化作業をしている。今回の財政シミュレーションの数値は一番厳しい見通し（5年間で大規模改修を全て終わらせる）を反映させている。公共施設管理計画では、平成29年度までは実績値を入れる予定である。

委員

管理計画は、公共施設のみなのか。インフラも含むのか。

事務局（荻田町）

インフラ施設も含む。道路・橋梁（インフラ）に関しては今ある施設を使うということで年間5.3億円更新等費用がかかるとみている。公共施設の更新等費用が平均して年間12.8億円かかる見込みである。合計すると改修・更新に年間18億円かかるとみている。

委員

最終的なシミュレーションには荻田町の計画策定によって大きく影響を与えるのであれば、どの程度考慮すべきなのかを示して欲しい。

事務局（荻田町）

平成30年度からは、平準化することで公共施設について12.8億円ほどかかるという想定を持っている。

委員

地方債を抑制するという話があるが、一方で公共施設を削減する時には除却債を有効に活用することも必要。

事務局（荻田町）

住民感情にも考慮すると、大規模な公共施設を削減するという方針を管理計画の中では示しづらい。現時点では、現状施設を維持する形で計画を作る予定。

委員

話は分かるが、削減することも考えておかなければいけない。

委員

どの自治体も公共施設を削減しないといけない状況にある。財政健全化と公共施設管理計画は一緒に考える必要がある。

委員

先に管理計画で「現状維持」という方針を出されると議論の幅が狭まってしまう。整合性をとる必要があるのではないかな。

事務局（荏田町）

500メートルメッシュの人口予測を基に、地区毎にどのような施設があれば、いいのかということも見えてくるのではないかな。この会議の中では「どの公民館を削減」という議論は難しいが、数は多いのではないかな程度の方向性は示して頂ければ。

委員

今回の会議で各論まで協議するのは難しい。投資的経費など総論レベルで、〇割程度必要といった話であれば出来るのでは。

事務局（九経調）

財政シミュレーションについては、まずは現状維持でいくと今後は厳しいということをお示ししたいと考えていた。現状の計画では歳出が多いという認識を持ったうえで、次回以降、住民サービスや公共施設をどうするのかということを考えていくためのもの、ということについてはご理解頂きたい。

委員

この結果を町民などに対して伝える場合、考えられる反応の1つは「財政状況が悪化した場合、国に頼ればいい」という声もでる可能性がある。九経調としては、その際にどのように答えると考えているのか。

事務局（九経調）

あくまでも個人的見解として回答するが、交付団体になれない可能性もあるということを示すことが考えられる。

委員

PRE（公的不動産）の活用は考えているのか。PREがあるのなら、これらを処分して財政に貢献するという手があるが。

事務局（荇田町）

平成26年に、公的財産については処分した。今後もそういうものが見つければ処分したいし、現在も手続きしているものがある。今後、不要と考えられる公共施設（行政財産）があれば、それを普通財産にすることで別途活用するということも考えている。これについても議論していただきたい。

委員

どうやら今後4年間で基金が尽きそうだという話が見えてきた。また、赤字状況になったとしても、不交付団体のまま経営していく可能性もある。荇田町としては大変厳しい状況になる。このような共通認識・問題意識の下、今後どうやったらいいかという議論をすることになる。

今回の協議結果を受けて修正した後、分かりやすい形で再度示していただきたい。

委員

シミュレーションについては一番厳しい状況を示すべきでは。例えば、リーマンショックのようなことが発生した場合、歳入見込みが更に悪化する。現在の条件をもとに推計をしているのは承知しているが、更に保守的なシミュレーションや楽観的なシミュレーションもあってよいのでは。こういうやり方は事例としてあるのか。

事務局（九経調）

バリエーションを考慮すると、キリがないのではないかと感じている。根拠をどう示すのかという点もある。現状を伸ばすケースですでに悪化していることを議論の入口にしている。

事例については、かつての市町村合併のシミュレーションにおける合併特例債の償還シナリオの設定を変えることで、楽観的な見通しや厳しい見通しを出すケースはあったが、積み上げによるシミュレーションにおける他事例については把握していない。人口の見通しを変えるやり方はある。

事務局（荇田町）

固定資産税はおおよそ減少幅を想定できる。法人町民税は景気に大きく左右される。しかし、この動向は読めない。この点をどこまでの金額で考えるかによって変わってくる。難しい、楽観的という条件を設置する難しさについてはご理解頂きたい。

委員

行政管理からすれば、最悪のケースから考えてリスクに備えた上で、前向きな取組を考える必要がある。あまり楽観的な見通しはよくないのではないか。

委員

第2回に向けてだが、苧田町の住民が生活圏としてどこの都市機能を利用しているのか、また周辺自治体の住民も生活圏として苧田町の都市機能を利用しているのかを明らかにして欲しい。どうやって移動しているのかという手段もわかればいい。

委員

予定された議案についてはすべて終了した。「その他」については事務局からお願いしたい。

8 その他

事務局（苧田町）

検討会議の公開方法については、要綱の規定により、座長が委員等に諮って定められている。事務局としては議事録を作成しホームページで公開する形を考えている。また、今回の会議は傍聴を含めた形で公開としている。今後の会議の公開方法についてご協議いただきたい。

委員

事務局が良ければ、全面公開で問題ない。

委員

議案によって変わってくる。この点は座長に一任したい。

委員

原則は公開にし、議案によっては非公開等を座長に一任して決めるということにする。